

このうち、研究連絡委員会に関する提案は、元来第10期の活動に関する前記一括提案に含まれたものであつたが、研究連絡委員会の改組は、学術会議にとって基本的なものであるだけに慎重にすべしとの各部の強い要望にこたえ、さらに第69回総会まで各部、各研究連絡委員会(各学協会)等で十分に検討した上で審議し、第10期委員会を正式に発足させようとするものであつた。

第3日は、午前10時すぎ開会、「国際環境保全科学会議を国際的に継続して開催することについて」(申合せ)を探査した。

出席者は第1日から第3日まで、それぞれ91%, 90%, 72%であつた。(日本学術会議広報委員会)

「鉄と鋼」特集号原稿募集のお知らせ

テーマ:高炉の炉内状況

本会編集委員会では、会員各位に本誌をよりよくご活用いただけるよう年2回程度の特集号の発行を企画し編集いたします。

製鉄関係では「鉄と鋼」第58年5号に「高炉の複合送風」をテーマとした特集号を発行しましたが、今回はゾンデ等による炉内状況の推定、特殊カメラによる炉内状況の観察、高炉の解体調査、モデルによる炉内状況の推定などを含め、標記「高炉の炉内状況」をテーマとする特集号を下記により編集いたすことになりましたので、関連した論文あるいは技術報告をふるつてご投稿下さるようご案内いたします。

記

1. 原稿締切日:昭和50年8月29日(金)
2. 原稿枚数:(論文)・本会所定原稿用紙(450字詰)図、表、写真を含め50枚以内(刷り上り10頁以内)。
(技術報告)・本会所定原稿用紙図、表、写真を含め35枚以内(刷り上り7頁以内)。
3. 発行:鉄と鋼 第62年第5号(昭和51年4月号)
4. 原稿送付先:100 東京都千代田区大手町1-9-4 経団連会館3階
日本鉄鋼協会編集課(電03-279-6021)
(投稿に当つては、原稿表紙に製鉄特集号と朱書き下さるようお願いいたします)

書評

金属の電子顕微鏡写真と解説

西山善次・幸田成康編

日本の電子顕微鏡が世界を風靡しているが、その電子顕微鏡を用いた金属及び合金の微細組織の観察も、その初期(1950年頃)から常に世界をリードしてきたことは私達の誇である。これは実に、西山善次、幸田成康両先生の大きな業績と、両先生の培かれた偉大なる学問的風土の賜である。

この両先生が金属・合金の標準的な電子顕微鏡組織を広範囲に集められて、解説されたのが本書である。

電子顕微鏡組織はその観察法にもかなり高度な技術を必要とするばかりではなく、現れた組織の解釈、電子回折图形と対応した解析など、かなり複雑で勉強を必要とするが、本書では、はじめに観察法と解析法についての解説(阪大、清水教授執筆)がある。実例によつて親切に説明されている。もちろん掃査型電顕なども含まれている。

それから、転位そのほかの格子欠陥、クリープ、疲労、破壊組織、マルテンサイトをはじめとする種々な変態および析出組織、腐食や酸化した金属・合金の組織、粉末やひげ結晶の組織、磁区模様などの典型的な金属組織が示され、一枚一枚親切な解説がついている。これは実に約200種類にも及ぶ種々な組織について示されている。

さらに電界イオン顕微鏡などのこれから発展すると思われる新しい観察法についても述べられ、最後に金属薄膜作成用電解研磨法の一覧表がついている。これが私達にとって非常に有役なものである。

とにかく、電子顕微鏡組織に関する最高の本である。金属組織に関心をもつ研究者、技術者は是非この本を座右に置いておく必要があるであろう。(田村今男)

(丸善発行、B5版、392ページ、6500円)